

ECO MEETING

さあ、みんなでエコミーティングを始めよう!!

エコミーティングってなんだ?!

描き下ろしマンガ

「豊かさの記憶を後世へ
~わたしたちにできること~」

難しく考えず、まずはやってみる!

エコミーティング実践のヒント

インタビュー「エコミーティングで拓く新しい建設業」

加藤建設がエコミーティングのお手伝い!

サポートメニューのご案内

 株式会社 加藤建設
Kato Construction Co.,Ltd.

 株式会社 加藤建設
Kato Construction Co.,Ltd.

お問い合わせ先

株式会社加藤建設 自然環境課

〒497-8501 愛知県海部郡蟹江町蟹江新田下市場19番地の1

Tel : 0567-95-2225 Fax : 0567-95-8803

e-mail : bioto@kato-kensetu.co.jp



「あれれ？ 見かけない怪しいヤツらが
ボクたちの森へ侵入してきたぞ！
一体何をしに来たの？」

ちょっぴりあわてん坊の妖精たちと、
加藤建設のスタッフとが繰り広げるストーリー。

ECO MEETING

さあ、みんなでエコミーティングを始めよう!!

はじめに

この冊子は、自然環境や地域住民に配慮した
「人も自然も守る建設業」を志す建設業者、発注者、
そして建設業界をめざす学生さんのためのガイド
ブックとして作成しました。

私たち加藤建設が始めた「エコミーティング」
は、建設工事において、

- ① 自然環境への配慮
- ② 地域住民への配慮
- ③ コミュニティーづくり

の3つのテーマのもと、実際の工事現場でどの
ような工夫ができるかを社員みんなで検討し、
提案・実施するものです。そこには、「建設業=環境
破壊」というイメージを変えていきたいという
強い思いがあります。

本冊子では、加藤建設のエコミーティング活動
を紹介するだけでなく、今すぐできる具体的な
「エコミーティング実践のヒント」を多く掲載して
います。

この本をご覧になったら、ぜひエコミーティングを
始めてみてください。

きっと新しい発見があるはずです。

Contents

- 02 エコミーティングってなんだ?!
描き下ろしマンガ
「豊かさの記憶を後世へ
~わたしたちにできること~」



- 19 難しく考えず、まずはやってみる!
エコミーティング実践のヒント



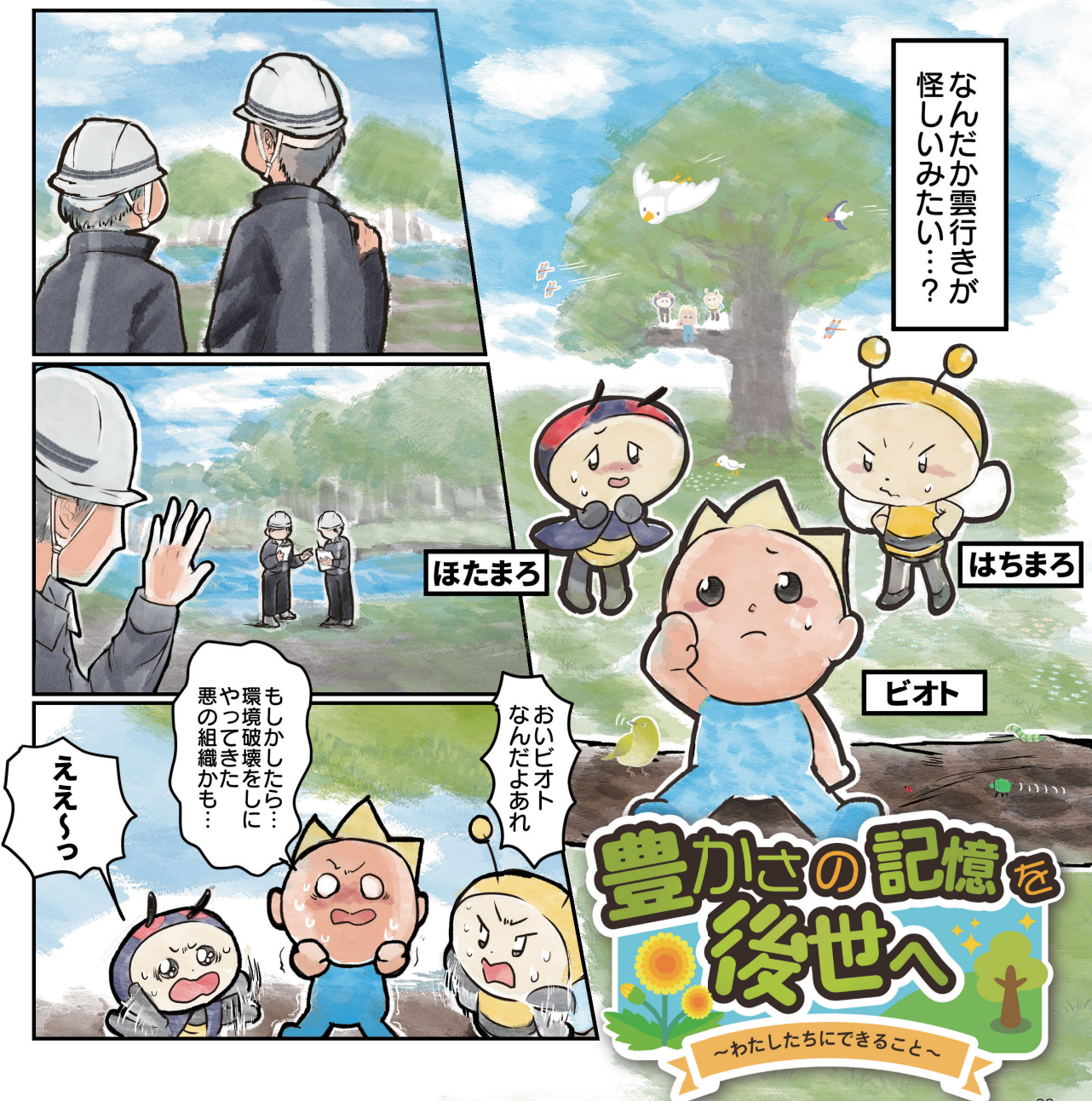
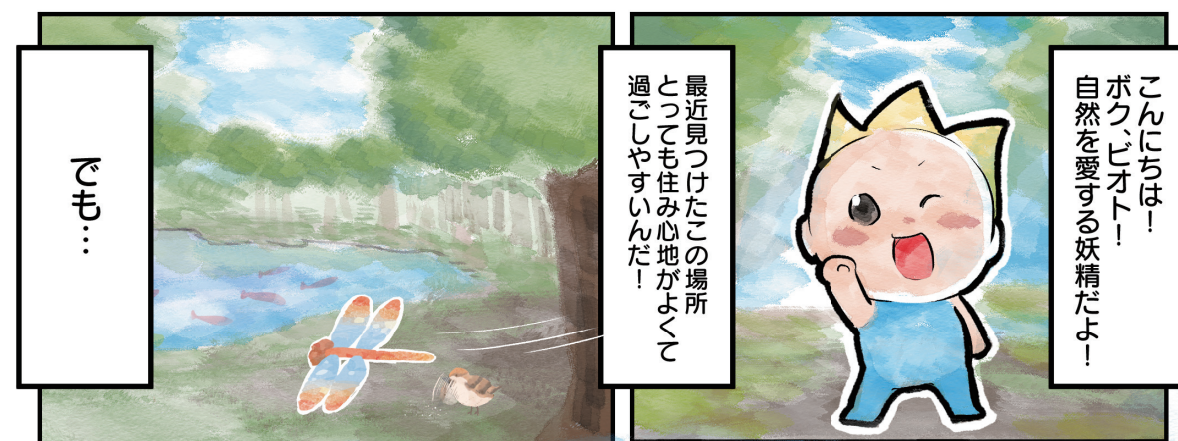
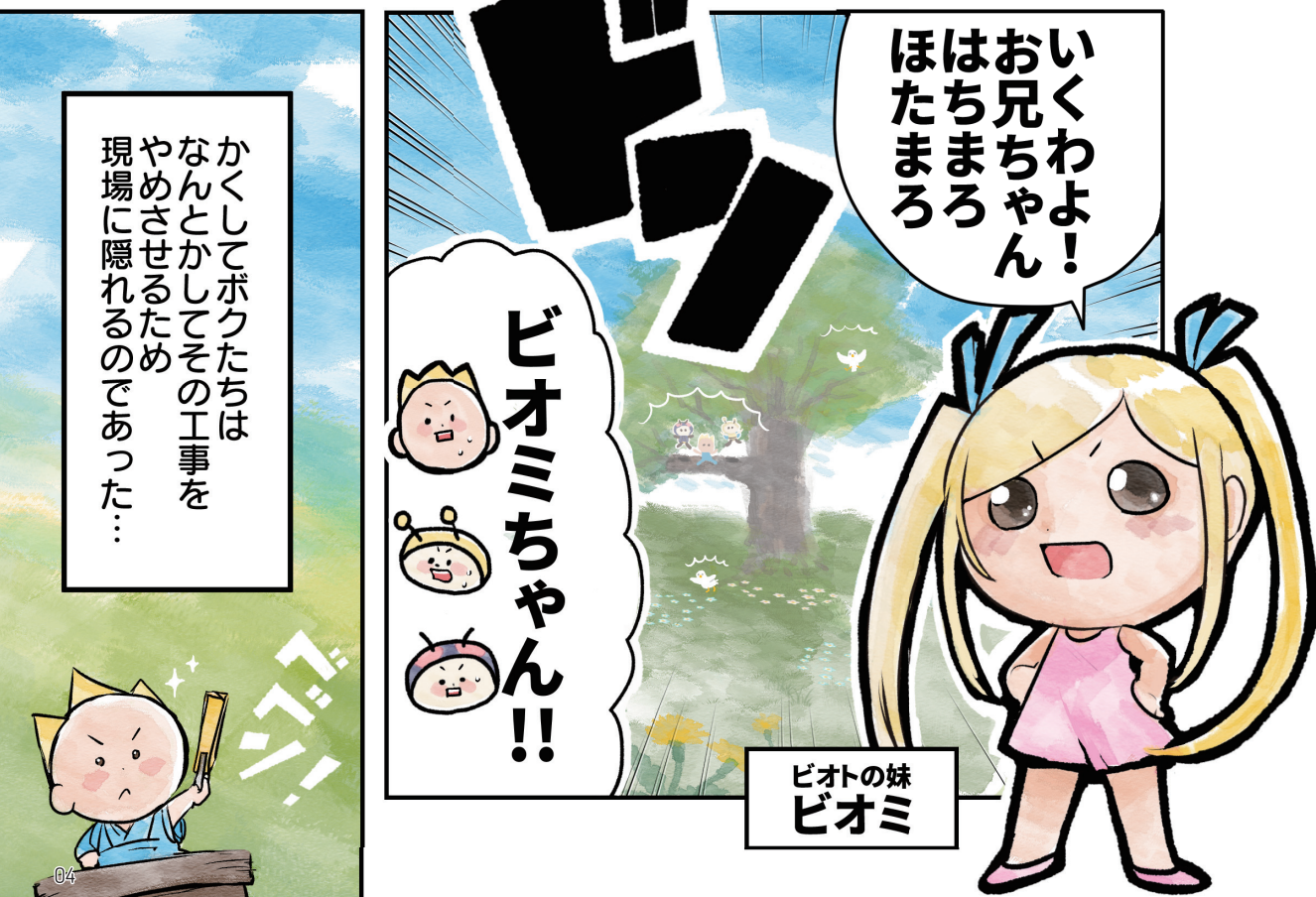
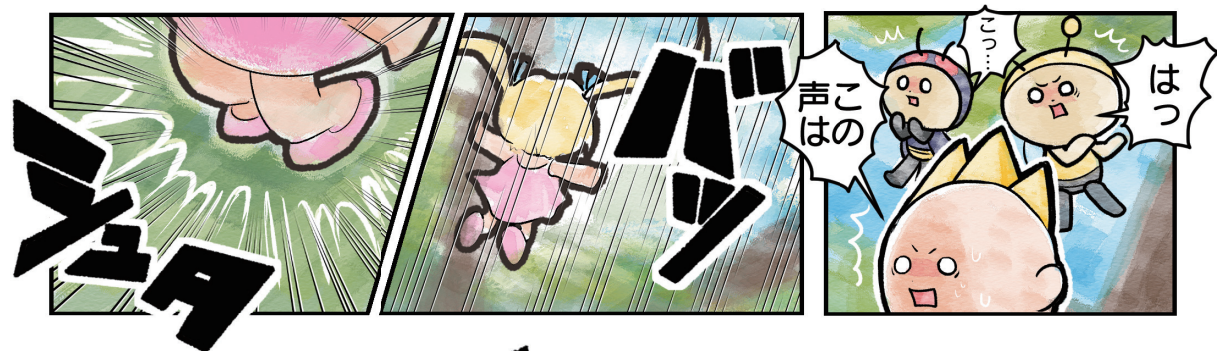
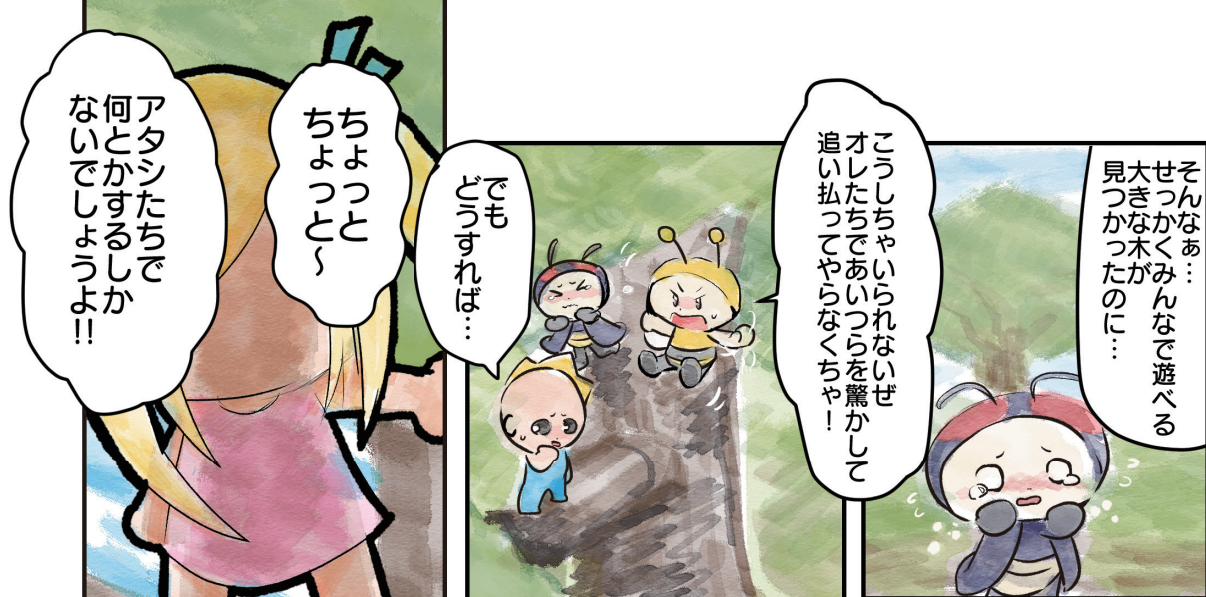
- インタビュー
27 「エコミーティングで拓く
新しい建設業」

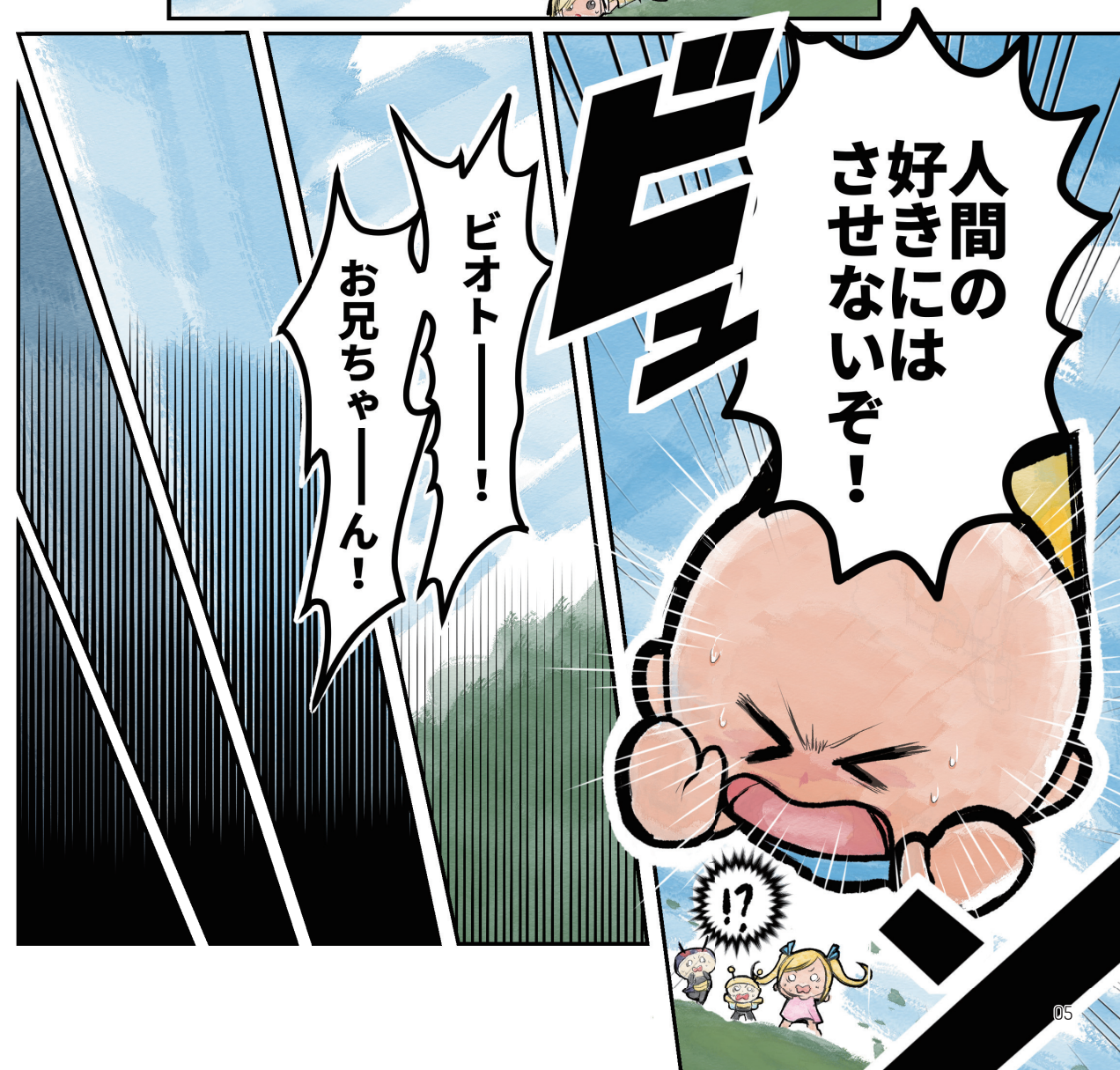
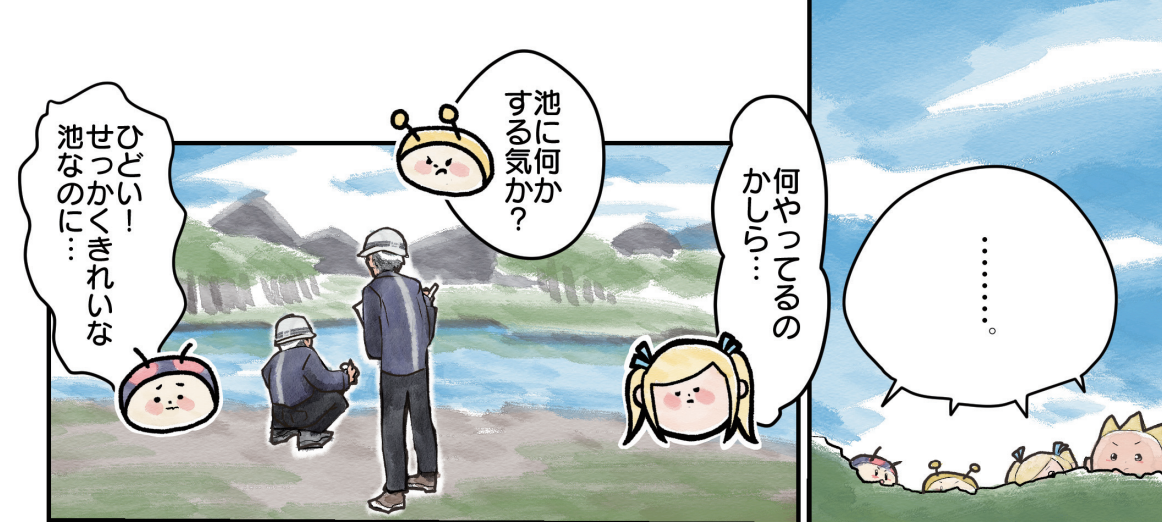
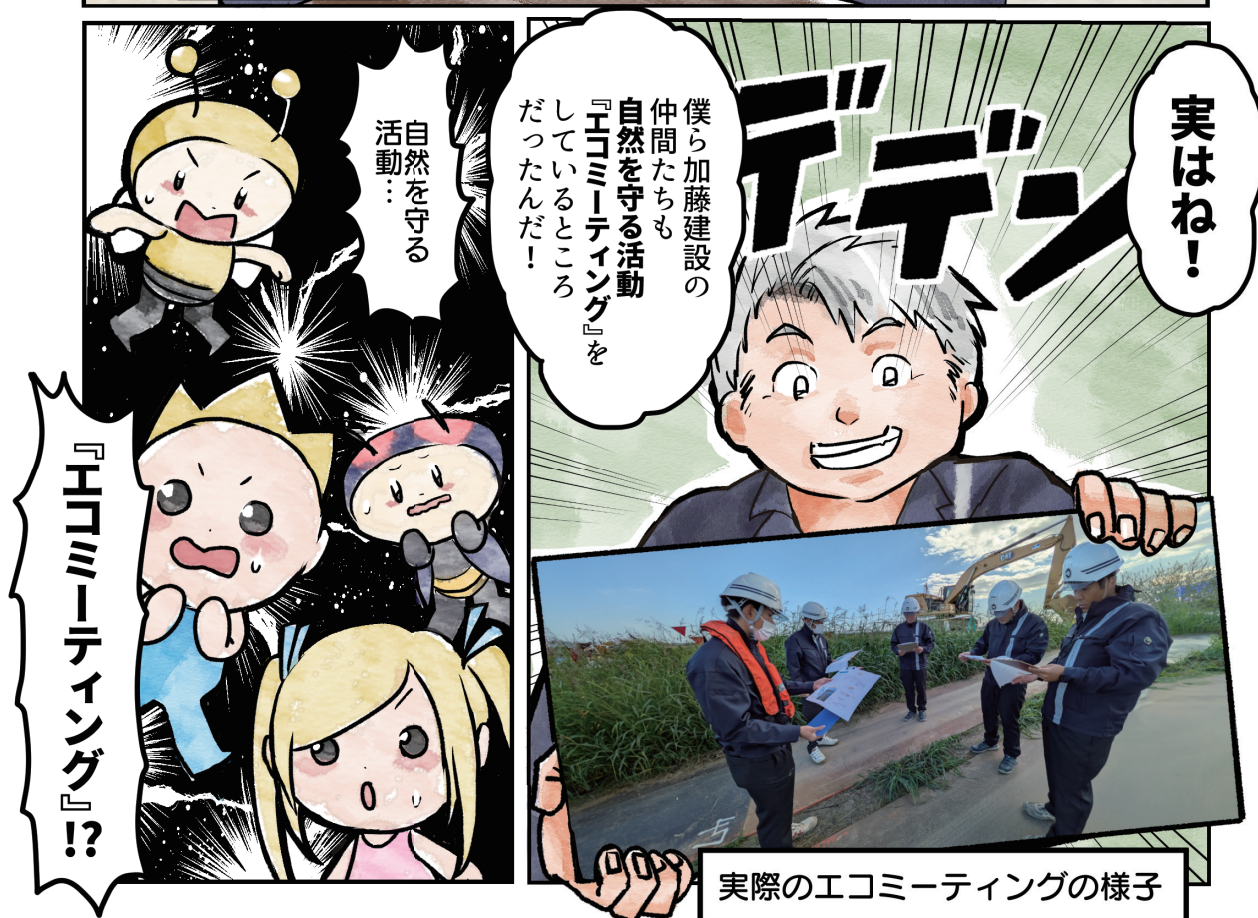
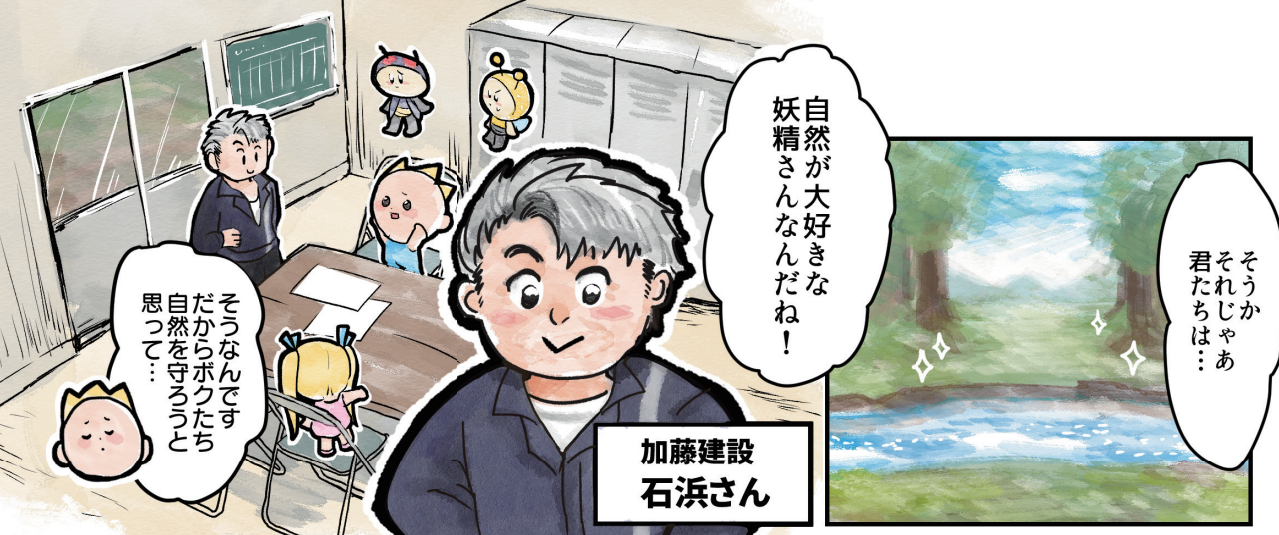


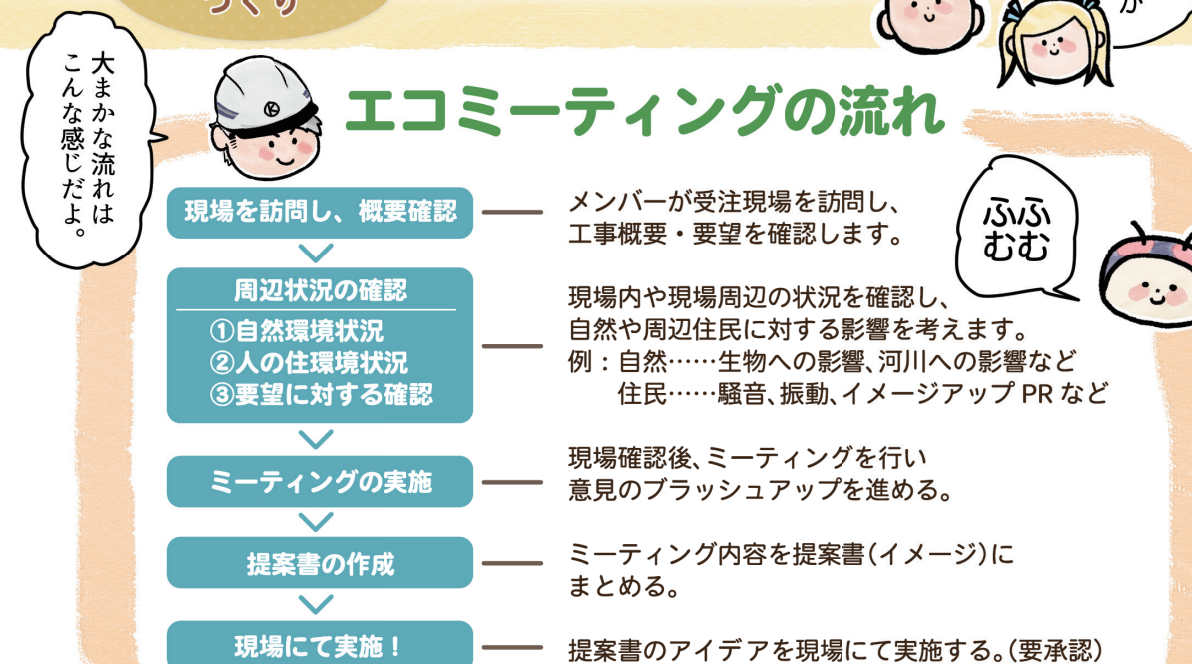
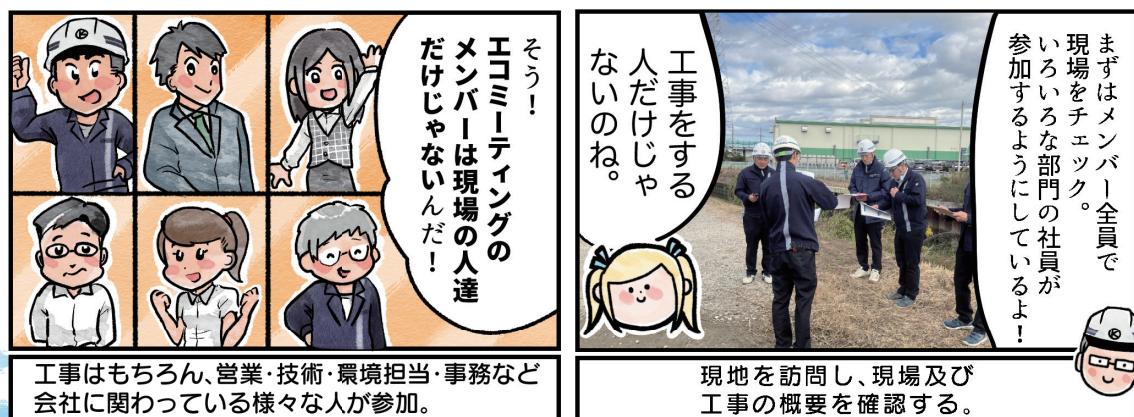
- 29 加藤建設がエコミーティングのお手伝い!
サポートメニューのご案内

- 30 会社概要









この現場は水路工事の時に生き物の生態調査や保護活動を行なった事例だよ。

じゃあ、まずは自然環境配慮の事例から紹介するね！

植生調査は現場の工事を進める前に必ず行うんだ。

1 自然環境配慮
工事における自然環境の保全と再生

「どんな生き物が生息しているか」を調べて、その後の活動を決めます。

現場の地図をつかってどこにどんな生き物が居たかマッピングすると分かりやすいね。

会社に帰って植物や生き物の種類を調べよ。

ちやうど！
だわい！
我慢して！
もらいましょ！

どんな魚が住んでいるかの調査のために池に網をかけた写真撮ったりするよ。

捕まえた魚を選別して…

外来種は放流。外来種は防除したよ。

実は…さっきビオトクンたちが遊んでいたあの木も工事の都合で伐採する予定だったんだ。

でも！なんとか切らずに済むように話をしてあの木は保護できることになったんだよ！

外来種に罪はないけどこれも自然の生態系を守るためなんだ。

それじゃもう少し具体的な事例も紹介するね。

そうだったんだ。ボクたち全然知らなかったよ。

そして、提案書のアイデアが現場で実施されるんだ！

工事担当者が発注者と協議し、提案書のアイデアを現場にて実施。

ミーティングで集まった沢山のアイデアを提案書にまとめて…

ミーティング内容をもとに事務局が「提案書」を作成、工事担当者に提案。

エコミーティングのこともっと知りたいです！

ボクたちオレたちアタシたち

エコミーティングの流れはこんな感じだよ。

でも？

でも…

分かちりました！

ええーつつ

ホントに!?

えーとこれはいつの資料だったの？

アカン！めっちゃ嬉しい！

あ？！鈴木くん資料もつけて！

こんなことも既に用意してあります！

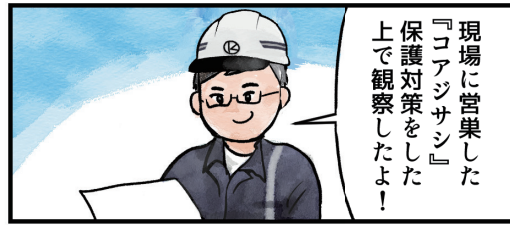
お祭りに参加できるといいなあ…

ここ前がのね

ワイ

ワイ

ワイ



エコミーティング事例『コアジサシの保護』



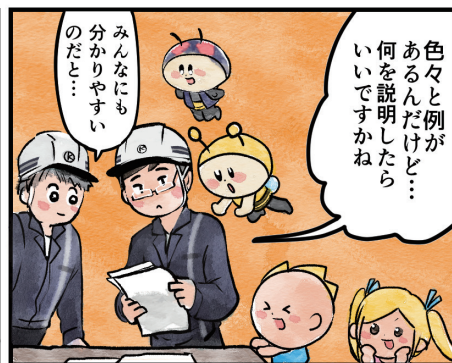
カメラで観察



ネットで保護対策



卵を発見



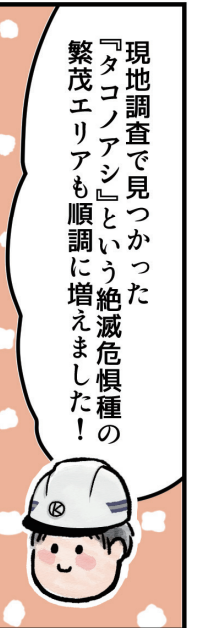
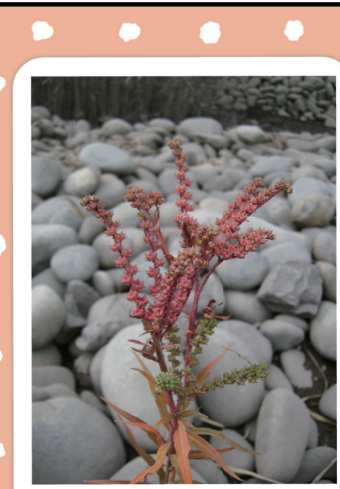
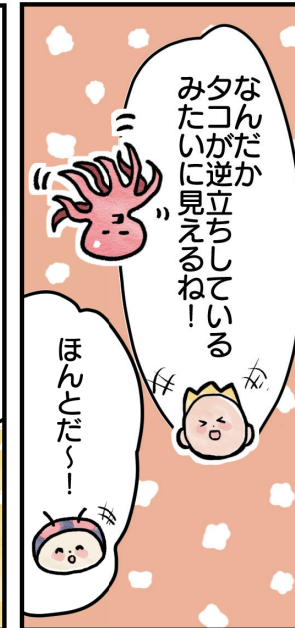
エコミーティング事例『ヨシ原の再生』



撤去後6年



玉石撤去後



2

地域にとって暮らしやすい街づくり

住民環境配慮



現場の見える化

工事現場周辺に住んでいる人々への配慮ももちろん実行しているよ！現場周辺の住環境への配慮は、自然環境への配慮にも繋がるんだ



排ガス対策



ハイブリッド重機の使用

3

工事と地域とのつながり

コミュニティづくり



かわらばん



現場見学会



看板製作

僕たちの仕事を知ってもらうことも大事！生態調査の結果を看板で掲示したり、かわらばんの掲載をきっかけに地元のお祭りに参加させてもらったり…



地域のお祭り



自然観察会



出前授業



イラストを飾っている様子

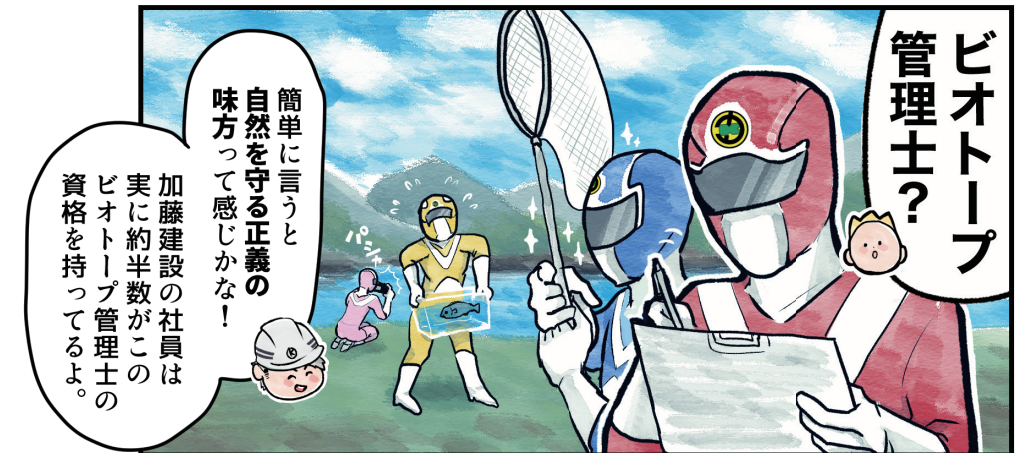
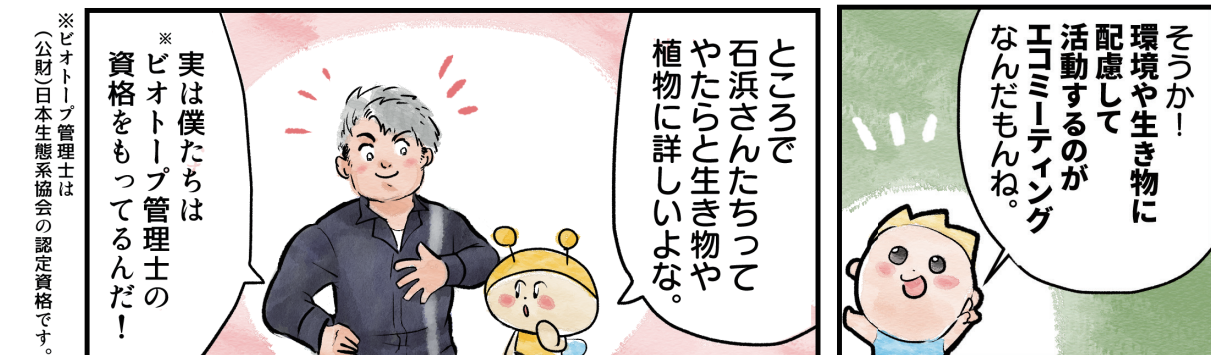


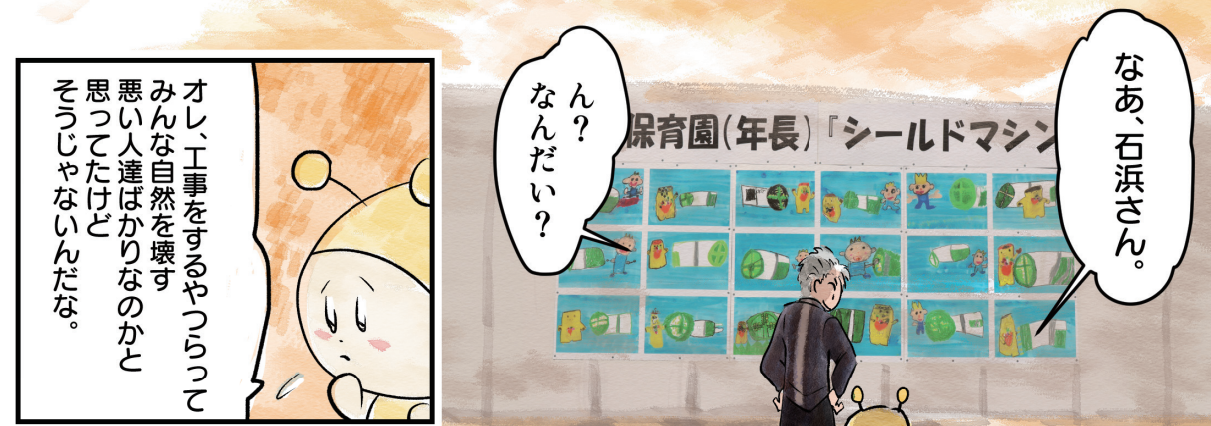
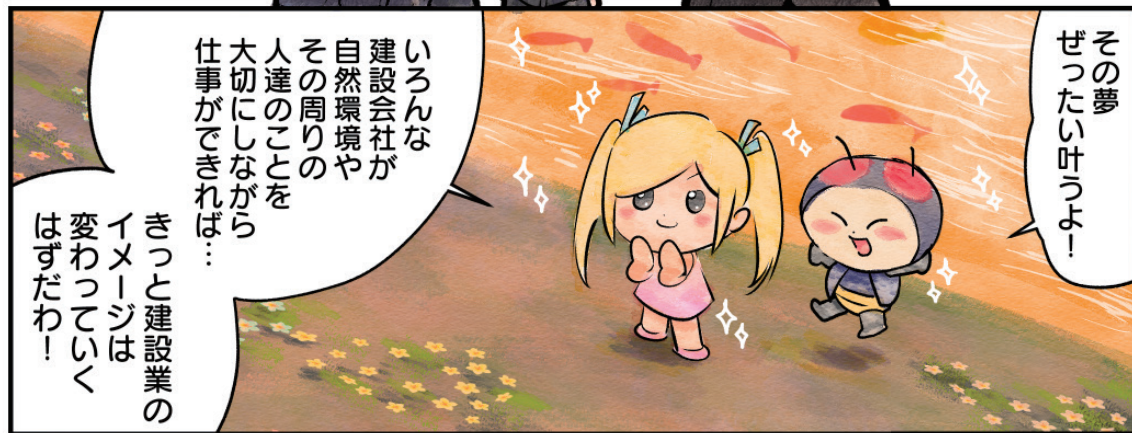
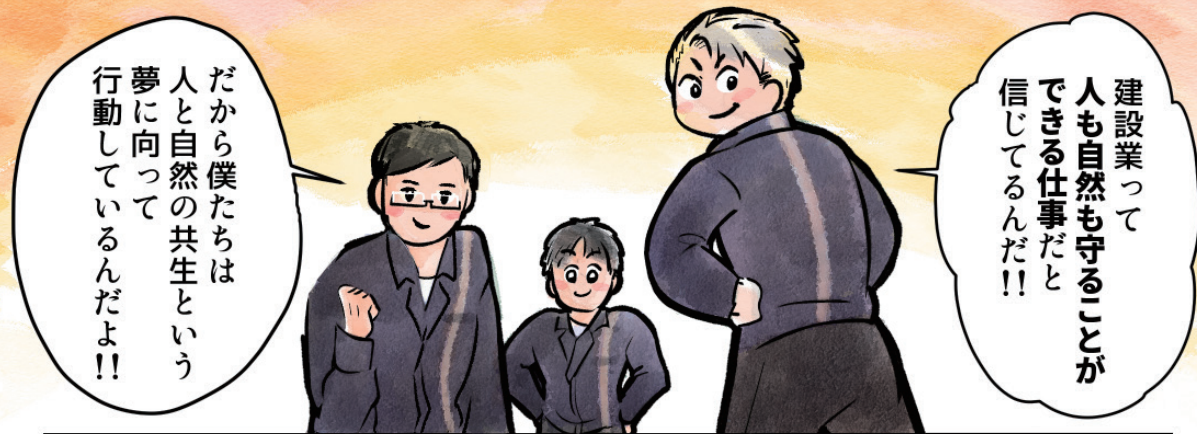
みんなに描いてもらったイラスト

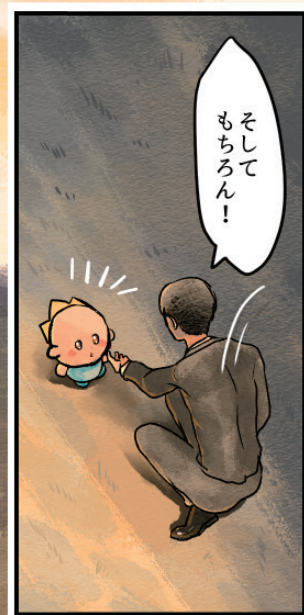
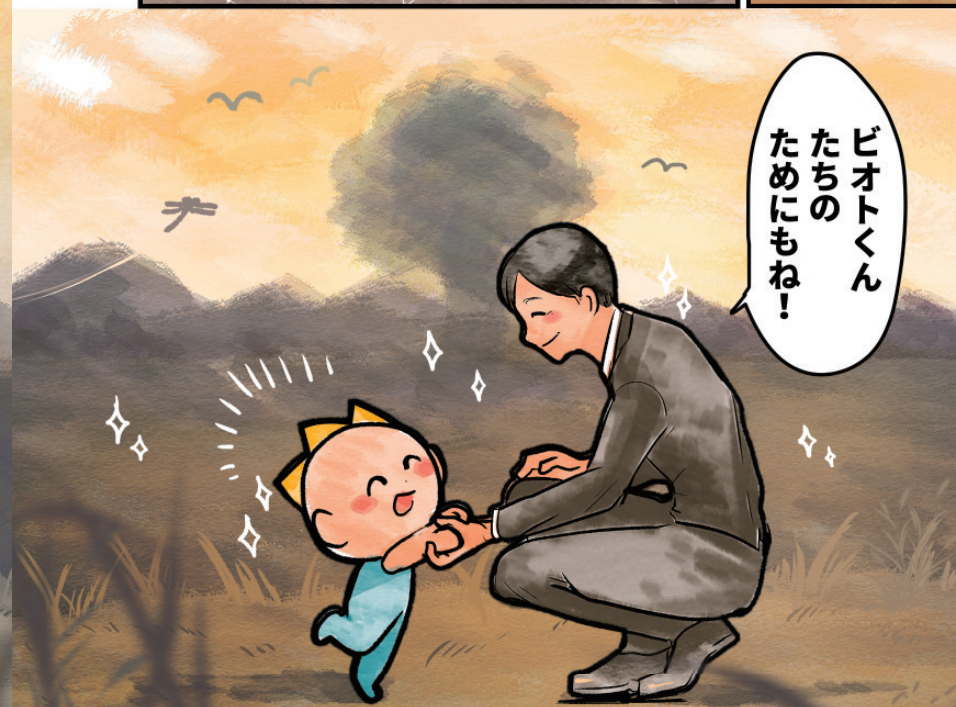
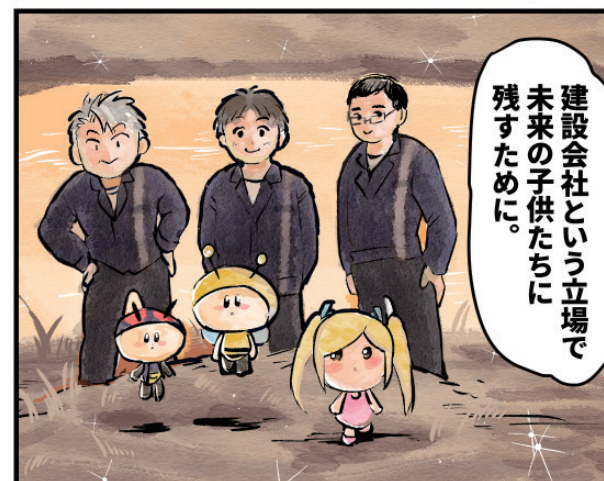
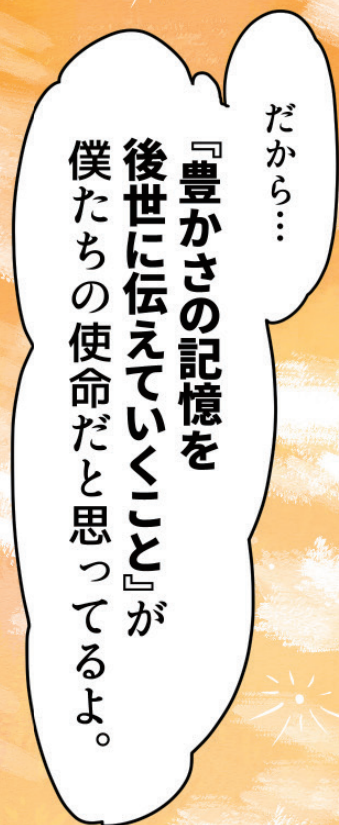
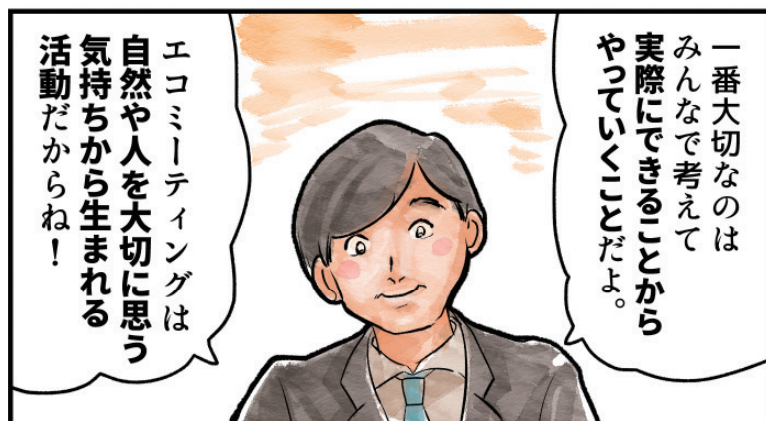
出前授業のときに接点をもった子供達に絵を描いてもらって、それを看板にして飾らせてもらったりもしているよ！

のく描頑み
ねれい張ん
！たてな
て

こわあ！
たくん
さんに
！







エコミーティング実践のヒント

エコミーティングは、自然や人を大切に思う気持ちから生まれる活動です。調査や設計など、専門性や難易度の高い取り組みばかりでなく、少しの手間や工夫ですぐにでも始められる活動がたくさんあります。ここでは、みなさんがエコミーティングを実践するためのヒントとなるよう、取り組み例を紹介します。

自然の多くある現場

石のすきまが
隠れ家になるよ

P24

水生生物の棲み家をつくらう

コンクリートによる護岸ではなく、自然石を用いた護岸を検討しましょう。



土の中に
種が眠って
いるかも

P23

生態調査をしよう

現場にどんな動植物が生息・生育しているか把握しましょう。



P25

表土を利用しよう

表土は一旦仮置きし、再利用しましょう。

P23

希少種を守ろう

希少な生き物が見つかった場合、適切に保護しましょう。



木の枝で
休憩できるね

P26

樹木を保全しよう

樹木の伐採は、最小限にとどめましょう。



P24

自然観察会

現場で自然観察会をひらき、地元住民とコミュニケーションをとりましょう。



P25

野鳥の営巣環境を守ろう

野鳥の営巣を確認した場合は、保護区域をつくるなどして見守りましょう。



P26

堤防法面を緑化しよう

在来種で緑化できればベスト！



P23

除草の仕方を工夫しよう

昆虫やトカゲを逃がしてから除草しましょう。

刈る前に
音や振動で
教えてね



P24

周辺の生き物を紹介しよう

看板や掲示板上で現場に生息する生き物を紹介しましょう。



P25

仮設パネルを装飾しよう
パネルや万能塀を有効活用しましょう。



地域のみなさんとの
コミュニケーションの
場になるよ

P26

CO₂排出量を低減しよう
温暖化防止のため、ハイブリッド重機を使いCO₂排出量低減に努めましょう。



P23

工事現場を緑化しよう
花壇やグリーンカーテンなどを取り入れれば、手軽に現場を緑化できます。



緑は見た目にも
涼しいね!

P25

現場を見せよう
壁面をクリアパネルにするなどで、現場を「見える化」しましょう。



P25

排ガス対策
人へはもちろん、洗濯物や垣根の樹木などへの配慮も必要です。



P24

現場見学会を行おう
地元住民や子どもたちに工事現場を紹介しましょう。



工事のこと、
もっと知って
ほしい!

P26

ビオトープをつくろう
小さなビオトープでも、生き物の拠点や中継点となります。



街にも緑が
ふえると
いいな!

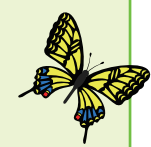
仲良
なれたら
嬉しいね

P24

地域の祭り等への参加
地域住民の安心感を増すとともに、コミュニティづくりにつながります。



	難易度	分類	項目	解説
	☆		間伐材を利用しよう	ベンチ・花壇・看板材などに間伐材を利用し、森林保全と資源の地産地消を促進。木材を用いることで、見た目にも優しい印象になる。
	☆		「かわら版」の発行	工事の内容や進捗状況等を伝える「かわら版」を発行、周辺住民に配布、建設業や具体的な工事内容、安全・環境に配慮した工事の取り組みなどを伝える。
	☆		住民アンケートを実施しよう	周辺住民の方を対象にアンケートを実施する。住民環境配慮、コミュニティづくりや情報発信の取り組み内容についての評価を受け、次回の工事に活かす。
	☆		あいさつ運動を行おう	あいさつ運動を行うことで、積極的に住民とのコミュニケーションを図る。
	☆☆		地域の祭り等への参加	祭りやイベントに参加することで、地域住民とのコミュニケーションを図ることができる。工事のPRも可能。工事に対する安心感を増すとともに、コミュニティづくりにつなげる。
	☆☆		現場水族館をつくろう(生き物展示)	河川等の水辺の工事の際、生態調査時に捕獲した生き物を展示する「現場水族館」を実施する。地域の生き物を紹介し、自然や環境に関心を持ってもらう。
	☆☆		水生生物の棲み家をつくろう	護岸などでは、可能な範囲でコンクリートの使用を避け、自然石などを用いる。多孔質な空間となることから、生き物に棲み家を提供できる。現地にある材料を利用するのがベスト。
	☆☆		自然観察会・現場見学会を行おう	現場で自然観察会をしたり、工事内容や環境活動を紹介する現場見学会を開催し、地元住民とコミュニケーションをとる。
	☆☆		河川汚濁を防止しよう	河川や水路に土砂や濁水が流出しないよう配慮する。具体的にはシルトフェンス、油対策キット、沈澱池の設置や、ヤシロールやウッドチップを用いた濁水対策を行う。
	☆☆		周辺の生き物を紹介しよう	現場に「環境掲示板」を設置し、現場に生息する鳥・魚・植物等を紹介する。また、周辺の山、公園、緑地などを調査、現場をエコロジカルネットワーク※3に位置付けて紹介する。
	☆☆		分かりやすく工事を紹介しよう	看板等で工事の概要を紹介する。「どんな目的のために、何をしているか」を分かるようにすることが大切。イラストを多く用いるなどして、分かりやすく伝える。



エコミーティング実践のためのアイデア集

できることから始めてみよう!



難易度について



★ 簡単(すぐにも始められる取り組み)
★★ ぶつう(比較的簡単だが、多少知識が必要)
★★★ 難しい(発注者協議が必要な場合あり)

分類について

加藤建設「エコミーティングの目標」に沿って、3つに分類しています。

①自然環境配慮  ②地域住民配慮  ③コミュニティづくり 
 工事における自然環境の保全と再生 地域にとって暮らしやすい街づくり 工事と地域のつながり



	難易度	分類	項目	解説
	☆～☆☆		生態調査をしよう	現場に生育・生息する動植物の写真を撮り、図鑑やWeb等で種類を調べる(同定作業)。撮影場所を地図上にマッピングし、どこにどんな生物が生息しているか把握すると効果的。調査結果は、掲示板等で地域住民に周知するとよい。
	☆～☆☆		希少種※1を守ろう	生態調査時に、保護が必要となる希少な生き物がいないか確認する。希少種が見つければ、植物の場合は柵で囲うなどして保護エリアを設置したり、動物・魚類等の場合は安全な場所へ逃がしたり放流する。
	☆		清掃活動をしよう	ポイ捨てごみ、漂着ごみが多い現場では、清掃活動を実施する。現場の美観を保つだけでなく、ごみの河川や海への流出や、生き物への被害(誤食、からまり等)を防ぐ。
	☆～☆☆		種子等の拡散防止	土の中に含まれる種子や生き物が別の場所へ運ばれるのを防ぐため、靴底を洗浄して土を落とす。重機の足回りやトラックのタイヤ等も同様に洗浄して土を落とすとよい。
	☆～☆☆		外来種の駆除	生態調査時に外来種があれば駆除する。なかでも、特定外来生物※2が発見された場合は、発注者に確認し許可を得た上で適切に処分する。セアカゴケグモ、ヒアリなど、危険な特定外来生物については、作業者及び地域住民向けに、注意喚起の看板等を設置するとよい。
	☆		除草の仕方を工夫しよう	除草作業をする前に、ほうき等で草地をはらい昆虫やトカゲを安全な場所に誘導、生き物を追い込まないよう中心から放射状に除草する、など工夫する。
	☆		工事現場を緑化しよう	グリーンカーテン、プランタービオトープ(プランターを用い、水草やメダカを入れて小さな生態系をつくる方法)、花壇の設置など、工事現場を緑化する。その際、在来植物を選ぶとよい。
	☆		粉じん、泥の飛散を防止しよう	こまめな散水、防じんシートやミスト噴霧器の設置、養生ネットの使用で粉じんや泥の飛散を防ぐ。植物を原料にした粉じん防止剤も製品化されている。

	難易度	分類	項目	解説
	☆☆☆		生き物を守る設計変更の提案	希少種※ ¹ の保護、樹木伐採等の回避のため、発注者に設計変更を提案する。加藤建設では、希少な昆虫の生息環境を守ったり、地域の鳥や昆虫にとって重要な樹木の伐採を回避するために提案を行った。
	☆☆☆		堤防法面を緑化しよう	法面を在来種で緑化する。種子吹付工の場合は、地域の在来種子を使うことが望ましい。草地は生き物の棲み家となり、地域の生物多様性※ ⁴ 保全に貢献できる。
	☆☆☆		自然を復元しよう	加藤建設の事例では、ヨシの生育を阻む橋脚下の玉石を設計変更にて撤去し、護岸に活用。施工から3年で、分断されていたヨシの繁茂がほぼ全域に拡大した(P11参照)。
	☆☆☆		樹木を保全しよう	樹木は、たとえ一本でも鳥や昆虫の中継地となっていることがある。伐採は最小限にとどめ、回避・移植の検討を。
	☆☆☆	 	ビオトープ※ ⁵ をつくろう	小学校や企業等の敷地の一角に、親水空間を兼ねたビオトープを造成。ビオトープは生き物の拠点となり、近隣の緑地帯をつなぐエコロジカルネットワーク※ ³ 化も。地域の在来種を使うと効果的。
	☆～☆☆☆		CO ₂ 排出量を低減しよう	CO ₂ 排出量を低減し、温暖化防止に貢献。具体的には、ハイブリッド重機の使用やアイドリングストップの徹底、土砂ピットによる残土の脱水促進(水分を抜き、残土量を減らすことでダンプの運搬回数を削減)など。
	☆～☆☆☆		エネルギーを生産しよう	太陽光発電設備を設置するなど、再生可能エネルギーによるエネルギーの一部自給を検討する。小型ソーラーパネルはリースで導入することもできる。

用語説明	※1 希少種	何らかの影響で数の少なくなった種で、生物の生息・生育状況を示すレッドリストに「絶滅危惧種」や「準絶滅危惧種」などとして掲載されている種。優先的に守らないと、手遅れになってしまう場合がある。
	※2 特定外来生物	外来生物法(「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」)で指定される、生態系や人の身体、農林漁業に特に影響を与える生物。特定外来生物に指定されると、ペットも含めて飼育、栽培、保管、運搬、譲渡、輸入、野外への放出などが禁止される。代表的なものに、アライグマ、カミツキガメ、オオクチバス、ブルーギル、オオキンケイギクなど。
	※3 エコロジカルネットワーク	生物の生息環境を孤立化・分断化させず、生物の移動を可能にする生態的なネットワーク。樹林地など、多くの生き物が生息する豊かな自然のある場所を、草原や街路樹などの「コリドー(回廊)」や飛び石状に配置されたビオトープなどでつなげる。
	※4 生物多様性	生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性から構成され、これを地球規模で保全するため、1992年に生物多様性条約が採択された。
	※5 ビオトープ	「生き物たち」を指すバイオ(Bio)と、「空間」を指すトープ(Top)からなり、地域の野生の生き物たちが生息する空間を意味する。ビオトープには様々な種類があり、人工／自然、生物の種類の多い／少ない等を問わず、その場所で自律的に繁殖する種によって持続的な関係が成立していれば、ビオトープであると言える。

参考になる図鑑・本
『花と葉で見わかる野草』近田文弘監修、小学館
『日本の野草 増補改訂(フィールドベスト図鑑)』(春)(夏)(秋)矢野亮監修、学研プラス
『日本の昆虫1400』伊丹市昆虫館監修、文一総合出版
『日本の鳥300 改訂版』叶内拓哉、文一総合出版
『改訂版ビオトープ管理士資格試験 公式テキスト』日本生態系協会監修、日本能率協会マネジメントセンター

	難易度	分類	項目	解説
	☆☆		表土を利用しよう	表土には、地域の在来種子が眠っている場合がある(シードバンク)。盛土や法面工事等では表土を一旦仮置きし、再利用することで、地域の植生環境を保全・復元する事が可能。
	☆☆		小動物の移動経路を確保しよう	法面の土留めで段差が発生したり、急斜面の護岸にすると、小動物が移動できなくなる。可能であれば小動物用の小道をつくったり、側溝や集水桝には部分的にスロープを設ける。
	☆☆		野鳥の営巣環境を守ろう	種類によって営巣時期が異なるので、まずは野鳥の生態を調査したり、専門家に意見を聞く。工事をする際は、施工期間や時間帯を調整し、野鳥へ悪影響を及ぼさないようにすることが大切(P12参照)。
	☆☆	 	「ビオトープ管理士」資格を取得しよう	「ビオトープ管理士」は、生態系の知識や関連した法規制・土木施工技術などが学べる資格。(公財)日本生態系協会が実施しており、最近では入札条件になっている場合もある。
	☆☆		環境保全責任者の選任	現場の環境保全責任者を選任し、掲示する。加藤建設では、ビオトープ管理士の資格を持った社員が、環境保全責任者となり、現場の自然環境を守ったり、環境教育や啓発を推進している。
	☆☆		天然資源やリサイクル材を活用しよう	雨水をタンクに集めて手洗いの水に活用したり、再生砕石、再生密粒度などのリサイクル材を積極的に使用する。
	☆☆		現場を見せよう	壁面の一部をクリアーパネルにするなどして、現場を見える化し、工事に対しての安心感を向上させたり、土木工事への興味を持ってもらう。
	☆☆	 	仮設パネルを装飾しよう	大きなパネルや万能塀を住民とのコミュニケーションツールとして役立てる。その地域に生息する生き物のイラストと解説をマグネットシートに印刷し、万能塀に貼り付けるなど。他に、近隣幼稚園等のお絵かき掲示、街の歴史や希少生物の紹介なども。
	☆☆	 	振動・騒音を低減	低振動・低騒音・無振動・無騒音機械、防振マット、吸音フェンス等を導入し、振動・騒音を低減。騒音や振動の抑制は、周辺に生息する生き物への配慮にもなる。
	☆～☆☆☆	 	排ガス対策	重機のマフラー位置を変更し、排ガスを上空へ逃がす。人へはもちろん、洗濯物や垣根の樹木などにも配慮する。場合によっては、黒鉛除去装置を設置する。

「エコミーティングで拓く新しい建設業」

エコミーティングの立ち上げから現在に至るまでの経緯を加藤会長にお聞きしました。
 経営者として、また一個人としてどんな想いを抱いているのか。
 また建設業界は生物多様性保全や暮らしやすい街づくりはどう対応すればよいのか、
 そのヒントをお聞きしました。（聞き手）株式会社フルハシ環境総合研究所 所長 浅井 豊司

KATO CONSTRUCTION Co., Ltd.
 株式会社 加藤建設



株式会社 加藤建設
 代表取締役会長
 加藤 徹

大地を相手にする 当事者として

Q エコミーティングを立ち上げたときの想いやきっかけをお聞かせ下さい。

私は加藤建設の本社所在地である愛知県蟹江町で生まれ育ちました。私の幼少期、蟹江には今よりもたくさん自然が残っており、虫や魚を採って遊ぶのが大好きでした。子どもの頃の自分がワクワクした経験やその環境を次世代につなげたいという想いがもともと根底にあったのです。

一方、建設業は自然を破壊していると思われがちです。道路や建物をつくるとき、そういう側面があることは確かです。しかし、私は「大地を相手にしている当事者だからこそ、破壊も再生もできる」という認識を持ち、できることを探すところからエコミーティングを始めたのです。

Q エコミーティングを始めた頃、「余分な仕事が増える」などと社員からの抵抗はありませんでしたか？

この取り組みは私の直轄のプロジェクトとして2009年に開始しました。私と現在の自然環境課のメンバーら数名で編成し、実際に現場に出かけ、手探りで仕組みを構築しました。軌道に乗り始めたのは役職者がビオトープ管理士の資格を取得し、知識が身について取り組むべきことがわかり、組織的な動きができるようになってからだと思います。資格取得にインセンティブをつけたこともあり、現在では社員の半数が有資格者になりました。

それに私は、生物多様性や地域住民への配慮は建設業者が当然やるべき仕事のひとつであって、「余分な仕事」とは思っていない。今は「自然環境課」という部署を置いています。専門部署がなくても当たり前にできるようにするのが理想です。

Q 「エコミーティング」というネーミングの意図をお聞かせ下さい。

建設業界では「安全パトロール」「現場パトロール」など「パトロール」という言葉を使うことが多いのですが、監視し、取り締まるような取り組みにたくはありませんでした。現場で自然に配慮できることをみんなで話し合って考える、みんなが参加して知恵を絞る、という意味で「エコミーティング」と名付けました。

エコミーティングへの評価

Q エコミーティングは、地域住民の方々や発注者からどんな評価を受けているのでしょうか。

エコミーティングを始めて、自然を守ることが仕事の一部になったことで、地域のみなさんに感謝されることが増えてきました。これは建設業全体がめざすべき方向性ではないかと思っています。

また、生物多様性の認知度が広がっていくにつれて、発注者から「いいことをやっているね」と評価されるようになってきました。発注者がエコミーティングのような取り組みに対して、アドバンテージを付けてくれれば業界全体の取り組みスピードは速くなるかもしれません。

建設業ならどの会社も当たり前に安全管理に取り組んでいるのと同じ

ように、ゆくゆくは「建設業界は生物多様性保全に取り組んで当たり前」という状況になってほしいと思います。

Q 他にはどのような経営メリットがありますか？

社員が家族に対してこれまで以上に誇りを持つて仕事の話をできるようにになりました。リクルート活動をしている学生からの評価が高いことも嬉しいですね。人材不足が社会的・業界的な課題と言われているなか、経営面での良い効果と言えるのではないのでしょうか。

「ありがとう」と 言ってもらえる建設業へ

Q これからエコミーティングを始める方々はどんなことに気をつけられればいいのでしょうか。

まずは生き物や自然を守るという気持ちを持つことだと思います。極端に言えばそれだけです。生き物のことを詳しく知らなくても、分からないことがあれば隣の知っている人にやり方を聞いて取り組むレベルで十分だと思います。気持ちさえ持つことができれば、すぐに始められる取り組みなんです。

建設業は、自然や生物多様性を保全することだけが仕事ではありません。まず、発注者には早く、安く、頑丈に作って



欲しいというニーズがあります。さらに、街づくりをするときには自然を保全することと街をより便利で快適にすることが、必ずしも一致するわけではありません。したがって、発注者、建設業者、そして地域住民がみんな「暮らしやすい街」とはどのような街なのかを考えて話し合い、折り合いをつける必要があります。

様々なニーズや価値観があるので、何が正解か答えを出すのは難しいのですが、「建設業はちゃんと考えているよ」と知っていたら、建設業のファンを拡げていけると思います。建設業が今よりももっと「ありがとう」と言ってもらえる業界になるように、同業者にもエコミーティングが広がっていくことを期待しています。

interview





会社概要

会 社 名 株式会社 加藤建設
創 業 1912年(明治45年)
建設業登録 1950年(昭和25年)
設 立 1970年(昭和45年)
資 本 金 1億円
代 表 者 代表取締役会長 加藤 徹
代表取締役社長 加藤 明
社 員 数 362名(2025年9月末現在)
U R L <https://www.kato-kensetu.co.jp/>
所 在 地 本 社 /〒497-8501
愛知県海部郡蟹江町蟹江新田下市場19-1
TEL 0567-95-2181 FAX 0567-96-1184
支 店 / 東北、東京、関東、名古屋、中部、西日本
営業所 / 北海道、北陸、茨城、千葉、四街道、
静岡、知多、広島、九州
事業所・工事事務所 / 中部事業所、泉工事事務所

エコミーティングに関わる主な受賞歴

2012年 愛知環境賞 銀賞
2015年 グッドライフアワード「環境と企業」実行委員会 特別賞
2015年 グッドカンパニー大賞 優秀企業賞
2016年 いきものにぎわい企業活動コンテスト 審査委員長賞
2016年 中部の未来創造大賞 優秀賞
2017年 環境 人づくり企業大賞2016 環境大臣賞
2017年 生物多様性アクション大賞2017 環境大臣賞&まもろう部門優秀賞
2020年 日本自然保護大賞(保護実践部門)
あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス 選出
2022年 あいち生物多様性企業認証制度 優良認証
2024年 持続可能な社会づくり活動表彰 生物多様性保護活動賞

エコミーティング

<https://www.kato-kensetu.co.jp/eco.html>

加藤建設 エコミーティング



WEBサイト



YouTube



あいち生物多様性
優良認証企業



愛知環境賞2012



グッドライフアワード



いきものにぎわい企業活動コンテスト



中部の未来創造大賞



環境人づくり企業大賞



生物多様性アクション大賞



日本自然保護大賞



あいち・なごや生物多様性
ベストプラクティス



あいち生物多様性企業認証



持続可能な社会づくり活動表彰

サポートメニューのご案内

「エコミーティング」は、自然や地域と関わる機会が多い建設業だからこそ行える環境配慮活動です。
私たちは、エコミーティングを広く建設業界に普及し、「人も自然も守る建設業」の輪を大きくしていきたいと考えています。
ここでは、加藤建設ができるサポートについてご案内します。

エコミーティングを始めたい方

エコミーティングの導入をお考えの企業・団体様を対象に、個別相談を承っております。ご不明な点や素朴な疑問を解消できるよう、直接アドバイスいたします。

エコミーティングへの理解を深めたい方

エコミーティングの実践に際し、社内研修の講師を派遣いたします。研修では、過去の事例を交えながら手順や方法などについてお話しします。身近な植物・昆虫・野鳥・魚の観察体験も可能です。

ビオトープの計画・施工について知りたい方

身近な場所で生き物の棲み家や拠点となる「ビオトープ」を作りますか?計画や施工をお考えの企業・団体様を対象に、質の高い環境づくりをめざすための技術的なアドバイスをいたします。

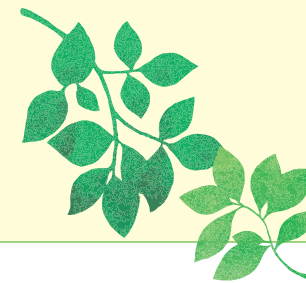
オリジナルグッズをお求めの方

「ECO MEETING」(本冊子)や、身近な植物について楽しみながら学べる「草トラップ」など、加藤建設のオリジナルグッズをお求めの方は、お気軽にご連絡ください。

※内容によって費用が発生する場合があります。まずはお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・ご相談

株式会社加藤建設 自然環境課
Tel: 0567-95-2225 Fax: 0567-95-8803
e-mail: bioto@kato-kensetu.co.jp



カトケン草トラップ



エコミーティングで出会った植物たちをトラップにしました。

遊び方はこちら

